

企業名：いすゞ自動車

レポート名：統合報告書 2022

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

「運ぶ」を支え、信頼されるパートナーとして、豊かな暮らし創りに貢献します。」という

企業理念の実現のために 4 つの社会的価値の提供を目指していることが読み取れる。さらにこれの実現に向けたアプローチや活動内容も書かれており、具体性を持った明確な将来像が分かる。

また、「中長期戦略」からはカーボンニュートラル化が重要視された事業展開が読み取れ、将来的には環境に配慮した持続可能な製品の開発を実現させようとしていることが分かる。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

「トップメッセージ」からは、この会社の優位性は、技術面ではパワートレインの技術開発や多品種少量生産の車両を効率的に組み立てられる車両生産技術、商品提供では世界 150 か国以上への販売網で優位性を確保していることが読み取れる。

また、アフターサービスでは MIMAMORI や PREISM を通してデータを活用した稼働サポートやリースビジネスの展開、さらにそこからフィードバックされた情報を開発に生かしていること、他にも物流業者との緊密な関係の構築が大きな強みであることが分かる。

「価値創造を支える競争力の源泉」では開発力、販売・サービス力、財務基盤、生産力、人材力、環境対応力が分かりやすくまとめられている。これらの情報から豊富な資本とグローバルな生産拠点を有し、安定性のある企業であるということが分かる。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

世界 150 か国以上で事業展開をしており、特に経済発展が進んでいる国の多いアジアで高い売上や多くの従業員数を確保していることから持続性があると考えられる。またアジアにとどまらず、カーボンニュートラル化を実現して環境に配慮した製品の開発に成功すれば社会において必要不可欠な会社となることは間違いない。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

「従業員の尊重と多様性」からは従業員の健康や安全、人材育成のための具体的なプランが確認できる。また女性や外国人労働者の活躍の場の拡充を実施していることから機会が均等に開かれていることが分かる。これより実績が正当に評価され、自分を含めた従業員

員のモチベーションが高く、働き甲斐があり、能動的な成長ができる職場であると考えられる。

さらに、会社としてお客様との協働や環境への配慮を目指していることから、相手の立場になってマーケティングをする能力や現状の問題を認識しそれに対処する能力が養われると考えられる。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

報告書の良かった点は図表が効果的に用いられており、伝えたいことがはっきりとわかるようになっていた。具体的には、似たようなレイアウトがほとんどなく読み進めていて飽きがこなかったところである。さらに赤を基調として見出しや図表が書かれていて、色覚にも訴えかけてきているように感じた。

改善余地については、トップメッセージがやや冗長的に書かれていることにあると考える。一見、統合報告書の全容を簡潔に説明しているように感じるが、字数が多く内容の反復が見られ読む分量が多くなる。私はここが一番読むのが大変だった。